

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI



31 JULY 2012

No. 168

特別号

小樽商科大学
学園だより

わたしたちは忘れない。

特集

アメフト部飲酒事故
岩手県被災地視察レポート

わたしたちは忘れない。

学園だより

題字は 山本眞樹夫 学長

No.168 31 JULY 2012

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

特別号

CONTENTS

ページ

01 特集 アメフト部飲酒事故

09 特集 岩手県被災地視察レポート

13 平成24年度「学生論文賞」募集要項

14 平成24年度グリーンヒル（学生支援）
プロジェクト追加募集要項

15 新任教員紹介

経済学科 天野 大輔

経済学科 白田 康洋

商学科 二村 雅子

言語センター 田林 洋一

大学院商学研究科 猪口 純路

20 新サークル紹介

21 平成24年度公認団体一覧

学生の皆さんへ

小樽商科大学長 山本 眞樹夫



諸君も知つてのとおり、この5月7日、本学グラウンドでバーベキューパーティーをしていたアメリカンフットボール部で飲酒事故が発生しました。部員9名が救急搬送され、うち意識不明となっていた1年生部員1名が5月24日に亡くなるという最悪の事態となりました。亡くなられた学生のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、ご家族に衷心よりお悔やみとお詫びを申し上げます。また、本学百年の伝統と名誉を傷つけたことに、深くお詫びを申し上げます。

この事故は、救急搬送された9名のうち7名が未成年者であったこと、亡くなられた学生が今春溢れるばかりの希望を胸に本学に入学したばかりの新入生であったこともあり、全国に報道され、社会の耳目を集めることとなりました。また、学生諸君からも自治会が集計したアンケート等を通じて、この事故に対する様々な意見を伺っています。なかでも、事故の状況や詳細を学生諸君に早期に直接説明すべきだったとの意見が数多くありました。この意見に対して少し説明をさせて頂きたいと思います。

この事故については関係した学生の処分を行うことになります。学生の処分は、訓告や停学などの表面的な措置にとどまりません。奨学金や授業料免除の停止、その他様々な補助制度に対して大学として推薦を行わない、また定期試験が停学期間に重なった場合には受験できず、当該学期の単位は認定されないなど、大きな不利益を伴います。したがって、処分の前提となる調査は慎重の上にも慎重を期す必要があります。調査期間、大学が断片的に学生諸君に情報を提供することは、公正な調査を損ね、断片的な情報からあらぬ憶測や推測を招くことになりかねません。社会的にみて公表すべきと判断した情報は、報道機関等を通じて公表しています。われわれは、報道機関に情報を提供しているつもりはありません。社会に情報を提供しているつもりです。ご理解をお願いします。

私は、学生諸君にこの度の事故を自分自身のこととして受け止めて欲しいとお願いしました。私自身も含めて誰もが経験する飲酒による気分の高揚は、常に事故と隣り合わせで、飲酒事故は誰にでも何時でも起こりうることです。アメフト部員の苦しみ、悩みも理解し、共に再発防止のために意識を高めていくことが、同じ緑丘に学ぶ仲間ではないでしょうか。いまこそ、「紳士として遇」されるにふさわしい行動をとり、緑丘を再び自由闊達な学園とするよう、学生教職員一同、心を一つにしましょう。

二度と起こさないために 小樽商科大学 教育担当副学長 大矢 繁夫



去る5月24日(木)午後10時30分、本学アメリカンフットボール部の飲酒事故により重篤状態に陥っていた1年生男子部員が亡くなりました。奇跡と回復を願う皆の祈りは届きませんでした。ご遺族の深い悲しみ、無念さ、やるせなさを感じる言葉はありません。今はただ心からご冥福をお祈りします。

2年ほど前、ある運動クラブの飲酒に関わる不祥事が学外で発生し、それ以降大学では、折に触れて飲酒についての注意喚起を強めてきました。しかし、今回の事故を防ぐことはできず、痛恨の思いです。アメフト部は全体として、未成年飲酒や過度飲酒の怖さについて認識を欠落させ、責任感の希薄な、従前の慣行に従うだけの付和雷同的な行動をとったと言わざるを得ません。飲酒に対して体も精神も準備ができていない未成年者の飲酒や過度飲酒を防げなかったことは、繰り返しの繰り返しですが痛恨の極みです。

大学は、学生諸君が自己を律し自己を治める一人前の大人に育っていくために、自主性や自己判断を何よりも重んじてきました。大学祭ではこれまで、大学祭実行委員会の学生自身が、飲酒事故を防ぐべく自らの取り組みと努力を行ってきました。このような自治的な雰囲気と能力が学生諸君に備わっていると見られるなかで、大学も学生の学内飲酒を容認してきました。しかし今回、このような大学の姿勢には限界があることを認識させられました。大学構内での全面禁酒について学長からの通告が発せられた所以です。

私たちは、二度とこのような事故を繰り返すことのないように、戒めを深く心に刻まねばなりません。今後、学外で飲酒する場合も、飲酒についての正しい認識(過度飲酒の怖さや事故時の適切な処置等)をしっかりと胸に留めておかねばなりません。そして、今回の大きな不幸を教訓に、全ての学生諸君が付和雷同的な姿勢や行動を払拭し、一人一人が自己判断と自律・自治の心構えを確固として持つよう願ってやみません。そういう商大生になってください。

謝罪文

この度は、私たちの部活動において不祥事を起こしてしまい多くの方にご迷惑をおかけしました。故人の御冥福を心からお祈りするとともに、御親族・御友人の方々におかれましては深くお悔やみを申し上げます。

また、山本誠樹夫学長をはじめとする教職員の皆様、そしてともに学んでいる学生の皆に多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

部員一人一人が今回のことをしっかりと受け止め、自分たちに出来ることに對し真摯に取り組んでいきたいと思っています。また、学生としての本分を改めて考え、本学で学業を全うし、今後社会人として世の中に貢献していけるよう精一杯努めていきたいと思っています。

平成24年6月15日

小樽商科大学アメリカンフットボール部 部員一同

第60回緑丘祭の中止とこれから

第60回緑丘祭 委員長 吉本 智

私たちは今回、5月上旬に発生した学内での飲酒事故を受け、第60回緑丘祭の中止を決定しました。今回の事故の影響を受け、運営側、参加者双方が望むような緑丘祭を開催することは難しいというのが主な理由です。

今回の決定により多くの方々に失望させてしまったこと、中止に関する対応で不満を感じさせてしまったことをお詫び致します。

中止決定後、今回や今後についてのアンケートを行いました。本文執筆段階においては、募集期間中のため未集計ですが、本当に多くの回答を頂いています。中には温かい応援、厳しい意見、どちらも含まれていますが、ともに深く受け止め、今後に繋げるための力としていきたいと思っています。

我々委員は、緑丘祭のこれからをどうするかを考えている最中です。これからを考える上で、参加者となる皆さんのお力を借りることもあるかと思います。少しでもみんなが望む緑丘祭に近づけるためにも、今後のご協力をよろしくお願い致します。

緑宵祭中止について

第21回緑宵祭実行委員会 実行委員長 高橋 征勝

5月に起きたアメフト部飲酒事故の影響を大きく受け、実行委員内で検討した結果、第21回緑宵祭の開催を見送ることと致しました。協力して下さった企業の皆様や地域の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

今年の学祭は例年とは違う意気込みがありました。昨年は商大創立100周年祭、一昨年はモラルの低い一般客の影響を受け、通常通りの学祭ができなかったり、二日目からの学祭を自粛規制で行なったりと過去2年間、本来あるべき姿ではなくストレスの多い学祭でした。今年の学祭では自分たち4年生が1年生だった時の楽しい学祭を再現するべく“元祖、緑宵祭!”をテーマに企画、実行するつもりでした。しかし、このような形となり学祭が中止となった今、後輩たちに自分が味わった学祭を伝えることができなくなり、とても残念です。

来年は学祭を行えるかどうか分かりませんが、素晴らしい学祭が行えることを期待しています。夜間主の魅力でもあるタテもヨコも仲が良い機会づくりを来年できることを願っております。

アメリカンフットボール部飲酒事故の概要

平成24年5月7日(月)

15時00分頃

大学のグラウンドにて、アメリカンフットボール部がバーベキューパーティを企画。75名が参加していた。

15時20分頃

バーベキューパーティ開始。アメリカンフットボール部の飲み会では、1年生がバーベキューで焼けた肉を4年生に持って行き、その際に紙コップにお酒を注がれるという慣習があったが、注ぐお酒の量は調整されていた。このパーティでは、飲酒等で具合が悪くなった者はグラウンド脇にある小屋または合宿研修所で休むように指導していた。

17時00分頃

バーベキューパーティ終了。以降は自由解散となり、そのまま帰宅する部員もいれば、その場に残り、引き続き宴会を行っている学生もいた。

19時30分頃

グラウンドに残っていた部員が、撤収のために、小屋で酔い潰れて眠っている部員10名を、順次、合宿研修所に搬送を開始した。

19時45分頃

合宿研修所への搬送時に、3名の1年生部員が声をかけても起きなかったため、マネージャーが119番通報により救急車の出動を要請した。その後、小屋及び合宿研修所から、合計9名の部員が市内の病院に搬送された。内1名は、心肺停止状態だった。病院に搬送された部員9名の内訳は、1年生が6名、2・3・4年生が各1名ずつであった。

平成24年5月8日(火)

- 副学長等が、病院に入院中の者を除くアメフト部の学生72名の事情聴取を行った。
- 事故に関する記者会見を3回実施した。

平成24年5月9日(水)

- 調査委員会を発足させた。
- 学内での飲酒を全面禁止する方針を決定し、内容をHPに掲載するとともに、ポスターを学内の各所に掲示した。

平成24年5月10日(木)

- 学長は、アメリカンフットボール部に対して、部の無期限活動停止を通告した。

平成24年5月15日(火)

- 調査委員会が、アメリカンフットボール部の部員及び関係者に対する事情聴取を開始した。

平成24年5月16日(水)

- 希望する学生に対して、保健管理センターにて、緊急アルコールパッチテストを実施した。(～6月1日)
- 飲酒事故の概要について、学部・大学院合同教授会で報告した。

平成24年5月18日(金)

- 緊急学生団体連絡会を開催し、学長、教育担当副学長から飲酒に関する注意喚起を行った。

平成24年5月21日(月)

- 緑丘祭実行委員会が緑丘祭中止を決定。

平成24年5月24日(木)

- 心肺停止状態で搬送された学生が、意識が戻らないままに、搬送先の病院にて死亡した。死因は、急性アルコール中毒だった。
- 緑宵祭実行委員会が緑宵祭中止を決定。

平成24年5月25日(金)

- 学生の悲報について、記者会見を行うとともに、HPに掲載した。

平成24年6月27日(水)

- 飲酒事故に関する調査報告書について、学部・大学院合同教授会で報告するとともに、記者会見を行った。

平成24年6月29日(金)

- 「小樽商科大学における学生の飲酒事故の再発防止等に関する第三者委員会」を設置した。

平成24年7月11日(水)

- 学部・大学院合同教授会にて、アメリカンフットボール部の廃部が承認された。
- 学部教授会にて、今回の飲酒事故に関係した50名の学生に対する懲戒処分が承認された。

①当事者にしかわからない

今回の件はあまり気にしていない。関係サークルにはお世話になった先輩もいるので、特に迷惑だという気持ちもない。本当のところは、当事者じゃないとわからないのではないと思う。中学生の時に、学校で実施したアルコールパッチテストの経験がある。

1年・男性・札幌市出身

②お酒は大切に飲みたい

同じ1年生としていたたまれないと思うが、キャンパスや自分の生活が大きく変わったということはない。今回の事故は、強制されて飲んだのではないと思っている。お酒は一気飲みなどせずに大事に飲まないといけけない。パッチテストの実施は知っていたが、どこでやっているかがわからない。

1年・男性・札幌市出身

③ひとり一人の意識が大切

いつかは起こるのではないかと思っていたが、実際に身近で起こるとショックだ。問題視しすぎるのも困るが、個人の意識が大切。お酒に弱くなくても自分を過信せずに、楽しく飲酒すべきだと思う。サークルに所属しているが、部員には前もって「飲める、飲めない」を聞いてくれるなど、先輩が気をつかってくれているようだ。

1年・女性・江別市出身

④同じ事故を二度と起こしてはいけない

入学して1ヶ月ほどで事故が起きたのでショックだ。私たちにできることは、二度と同じ事故を起こさないことだと思う。私自身お酒が強いかわからなかったし、お酒を断れる雰囲気だったので、サークルの食事会ではジュースを飲んでしたが、サークルによると思う。

1年・女性・江別市出身

⑤根本的な対策が必要だと思う

今回のことはたまたま商大で起こっただけで、他のどの大学で起こってもおかしくはないと思う。根本をしっかり正さないと、大学生の飲酒事故は、時間が経てば繰り返されるのではないか。入学当時は未成年の飲酒に抵抗があったが、飲まない方がおかしいという雰囲気もある。

企業法学科2年・男性・室蘭市出身

⑥サークル内で指導を徹底

最後の年に起こった事故を、大変残念に思う。就活にも影響が出る。未成年の飲酒がいいとは思わないが、サークルの行事として飲み会があると、つい一緒に飲んでしまうこともあると思う。私の所属サークルでは、「飲ませ過ぎない、飲み過ぎた人を一人にしない」といった、学校側からの指導を共有していた。守るかどうかはサークルによって違う。

経済学科4年・女性・札幌市出身

⑦話す気になれない

お世話になっている先輩がアメフト部にいるので、今回の事故については意見を述べる気になれない。

経済学科2年・男性・小樽市出身

⑧静かに飲むのが普通

卒業式の祝賀会もなくなると聞いている。そういうところにまで影響することを考えると、4年通って来てとても残念だ。私の所属サークルでは未成年が飲酒することなく皆静かに飲んでいるが、それが普通だと思う。大学祭で飲酒が許されていたのは、札幌や小樽では商大だけだったと聞いた。

商学科4年・女性・札幌市出身

REPORT


 キャンパスで聞いてみました。

⑨部屋から現場が見えて驚いた

昔の飲酒事故は聞いたことがあったが、実際に起こるとは思っていなかった。入学してすぐの「生活と健康」という授業のなかで、アルコールについて学んだばかりだった。寮の部屋の窓から事故現場が見えて、サイレンの音もして、何と書いていいかわからないくらい驚いた。

1年・女性・帯広市出身

⑬飲み方はわかってはいたはず

今まで購買にアルコールを置いて学生の勝手にさせておき、事故後突然「飲むな」と言われても、すんなり納得できない思いはある。新歓コンパ等で、どんな飲み方をするサークルかは、1年生もわかっているはずだと思う。ごく普通の飲み方をするサークルにいる自分にとっては、まったく関係のないことで、何とも言えない。

社会情報学科2年・男性・帯広市出身

⑩双方に問題があるのでは

学校側としては、飲酒についての管理は個人の自由に行っていたと思う。大学生は大半が成人なのだし、何かあっても本人の責任なのではないか。お酒を勧める方も悪いが、飲む方にも問題はあろうと思う。

経済学科2年・男性・札幌市出身

⑭当事者が責任をとるべき

大学はこの問題の責任を曖昧にしていると思う。当事者ではない学生も飲酒について考え直さなければならぬが、起きた事故に関してはその当事者が責任をとるべきだ。学内全面禁酒や大学祭の中止では、その責任を果たしてはいないと思う。

商学科3年・男性・北見市出身

⑪大学側の対応も遅い

学生の飲酒自体はよくあることだと思う。今回は、ノリを優先して歯止めがきかず、やり過ぎてしまったのではないか。事故後一週間くらい経ってから、学生に自粛を呼びかけた大学側の対応も遅いと思う。事故直後には、他サークルで飲酒なしの花見をやるという動きもあったほどだ。

商学科4年・男性・札幌市出身

⑮二度と起こしてはいけない

今までお酒の席では、飲ませたり、飲みすぎることにないように自分なりに気をつけてきたが、今回の飲酒事故を受けて、飲酒の際にはより気をつけようと思った。このような事故が二度と起こらなければいいと思う。

商学科3年・女性・札幌市出身

⑫サークルの持つ伝統の違い

商大の各サークルは、大学主催の「飲酒に関する説明会」に必ず参加しなければならない、参加しないとサークルとして活動が認められない。説明会に参加した上で起きた事故なので、守れなかった方に全面的に責任がある。飲酒についての考え方は文化系、体育会系サークルの違いと言うよりは、そのサークルの持つ伝統の違いだと思う。

社会情報学科4年・男性・札幌市出身

⑯思い知ったお酒の恐ろしさ

お酒のちょっとした強要というのは、どのサークルでも割とありがちなことだと思う。今回の事故で、商大生全員がお酒の恐ろしさを思い知ったと思うので、今後はそのようなことがなくなればいいと思う。

商学科3年・女性・旭川市出身

怖い！急性アルコール中毒にいたる 飲酒のメカニズム

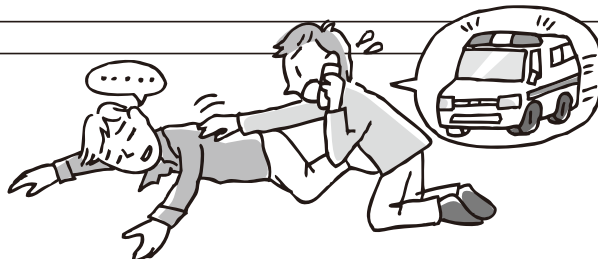
イッキ飲みと 急性アルコール中毒の関係



胃や小腸から吸収されたお酒は、血液の中に入って全身に行き渡ります。血液中のアルコール濃度が上がるとともに、酔いの症状も進みます。酔いの症状は、「爽快期」→「ほろ酔い期」→「酩酊初期」→「酩酊期」→「泥酔期」→「昏睡期」の順で、この症状に合わせて脳のマヒも進んでいきます。血液中のアルコール濃度が最高値に達するには、通常飲み始めてから30分～1時間ほどかかります。ゆっくり飲んでいれば「酔い」のサインを感じながら飲むことができるので、危険な状態になる前に「これ以上飲むのはよくない」と自分で判断し、飲酒を止めることができます。しかしイッキ飲みをすると、大量のアルコールが短時間で体内に入るため、肝臓での代謝が追いつかず、「酔い」を感じる前にお酒が全身に回ってしまいます。血液中のアルコール濃度は急激に上昇し、脳がこれ以上飲むと危険だという信号を発する機会のないまま、酔いの症状はいきなり急性アルコール中毒段階である、「泥酔期」もしくは「昏睡期」に入ってしまうのです。

イッキ飲みをしたからと言って、ジョッキやコップを置いた直後に酔いが回り「昏睡期」に入るわけではありません。酔いのピークは少し後からやって来ます。軽い酔いを感じる程度で「まだ大丈夫」と思って飲み続けていると、後に変なことになります。このようにイッキ飲みには、大きな危険がはらんでいるのです。

周囲に「昏睡期」の 状態の人がいたら



泥酔（酔いつぶれた）状態の人がいる場合は、決して一人にはせずに必ず誰かが付き添うようにします。一人でトイレなどにもこり、そのまま昏睡状態になることも考えられます。そうならないためにも、泥酔状態の人には必ず付き添いが必要です。昏睡（呼びかけても叩いても無反応）状態の場合は、直ちに救急車を手配します。いずれの場合も、絶対に一人にしてはいけません。意識の有無に関わらず、ベルトやネクタイなど衣服を緩めて楽にし、吐いたものが逆流して窒息しないよう横向きに寝かせます。嘔吐による誤飲・舌根沈下などからの窒息死は、急性アルコール中毒による死亡原因のトップにあげられます。必ず横向きに寝かせ、吐きそうになっても抱き起こさずに横になったまま吐かせます。ただし、意識がなかったり朦朧としている人を無理に吐かせるのはやめましょう。

また、アルコールを肝臓で代謝するとき水分が使われるため、身体はどうしても脱水症状気味になりますので、できる限りの水分補給も必要になります。体温低下も防がなくてはなりませんので、上着や毛布などをかけて温めてあげましょう。

「泥酔期」と「昏睡期」の差は紙一重です。人の命がかかっていることを認識し、迷わずに病院に連れて行く、救急車を呼ぶなどの対応をしてください。

大量飲酒の危険性

急性アルコール中毒で病院に運ばれる学生は後を絶ちません。大学生になるとお酒を飲む機会が増えますが、サークル恒例の伝統行事と称したイッキ飲みなどは、「ゲーム感覚」で行われているようです。軽いノリであっても、お酒の強要には変わりありません。酔う＝脳がマヒするということです。「ゲーム感覚」での大量飲酒がいかに危険かを知ってください。

「酔い」のメカニズム4段階

1
気持ち
がほぐれる



ほろ酔い

アルコールの作用で大脳新皮質がマヒし、理性の抑制がはずれる。気持ちがほぐれてリラックスし、陽気にはしゃいだりおしゃべりになる。脳のマヒはすでに始まっている状態。

2
足下
がふらつく



酩酊

大脳辺縁系にマヒが及び「酔っぱらい」状態になる。足元がふらつく、同じ話を繰り返す、ロレツが回らない、他人にからむなどの症状が出たら飲むのはストップ。周りも止めるようにする。喧嘩などのトラブルや、バランス感覚のマヒから転落事故などに注意する。

3
酔い
つぶれる



泥酔

大脳全体にマヒが広がり、脳幹や脊髄にも及び始める。立つことができず、意識が朦朧としてぐったり酔いつぶれた状態。吐いたものを詰まらせての窒息死や、外で眠り込んでの凍死などの危険があり、絶対に一人にしない。誰かが付き添って病院へ行くこと。

4
何を
しても
起きない



昏睡
↓
死

ついにマヒが脳幹・脊髄から、呼吸中枢のある延髄に。延髄がマヒすると呼吸停止から死に至る。口から泡をふいている、呼吸が浅い、叩いてもつねっても反応がないなどの場合は、生死に関わる深刻な状態。一刻も早く救急車を呼ぶこと。

全面 禁酒



平成24年5月7日(月)にアメリカンフットボール部による重大な飲酒事故が発生しました。
事故の重大性に鑑み、学内のいかなる場所・場合においても、例外なく全面的に禁酒とします。
 なお、この方針に違反した場合には、学生処分等の対象になり得ることを申し添えます。

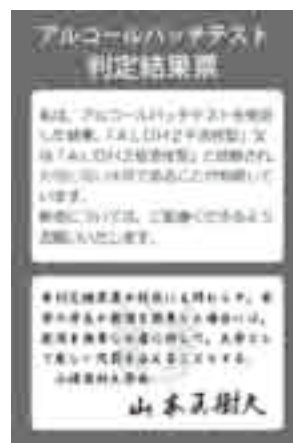
平成24年5月9日 小樽商科大学長 山本 眞樹夫

学生諸君へ

学内及び大学関連施設における飲酒の禁止については、先日通知したところですが、現在実施している学内巡視においても、この通知を遵守するとともに、保有していたアルコール類を自主的に差し出して廃棄を希望するなど、学生諸君が全面的に協力してくれている旨の報告を受けております。諸君らの理性ある行動に感謝いたします。学外における飲酒についても、未成年者の飲酒及び飲酒の強要が行われていないことを信じております。

また、飲酒の危険性やアルコールハラスメントに関する理解に加え、学生諸君一人ひとりが、アルコールに対する自らの体質について理解することが重要です。そのため、この度、緊急アルコールパッチテストを実施することといたしました。日本人の約4割が、アルコールに弱い体質だといわれています。自分の身を守るためにも、また、大切な仲間の身を守るためにも、このパッチテストを受診してください。

パッチテスト受診の結果、アルコールを受け付けない体質であることが判明した場合は、飲酒の場において強要されることのないよう、判定結果票を携帯等にダウンロードして保存することを推奨いたします。判定結果票を見せてもなお、本学学生から飲酒の強要を受けるような事態があれば、飲酒を強要した学生に対し、学長として厳しい処罰を下します。



平成24年5月15日

小樽商科大学長 山本 眞樹夫

商大生の皆さん、初めまして。私達は環境科学の授業である“震災と復興”の派遣事業として、被災地に行きました「たるてい」です。たるていとは、小樽の“たる”とコミュニティの“てい”，そして「伝える」という意味のTellの頭文字“てい”をもじって付けたもので、商大生を始めとする多くの方々に「震災への意識の備えを情報発信によって作る」をモットーに活動しています。この記事は代表の企業法学科3年、長崎が書かせて頂いております。メンバーは商大の1年生から3年生までの11名、先輩も後輩も互いに助け合いながら日夜活動に励んでいます。

今回は、5/18(金)～5/20(日)の二泊三日で行った被災地派遣で、私達が感じたいくつかのことを紹介させていただきます。

■被災地派遣の日程

まず始めに私たちの行った被災地派遣の日程をご説明させていただきます。

5/18(金)

21:30 苫小牧港から青森・八戸港へ出航

5/19(土)

5:30 八戸港から宮古田老地区へ出発

9:00～10:00 宮古田老地区漁協前で防災ガイドの方のお話を伺う

12:00 宮古田老地区を出発

14:00～15:00 釜石市鶴住居商店街(ここで2グループに分かれました)

①商店街の方のお話を伺う

②鶴住居小学校・釜石東中学校の避難経路の調査

18:00 合流

21:00 きらりベース(大槌北小学校)で宿泊

5/20(日)

6:00 起床

7:15 旧大槌病院前から路線バスに乗り釜石駅へ

8:00 釜石駅到着(ここで2グループに分かれました)

①8:30～12:00 釜石市内で瓦礫撤去作業を行う

②9:30～13:00 陸前高田の調査

16:30 花巻空港にて合流、帰路につく

このような日程で八木先生、大津先生、深田先生の引率の下、行いました。今回はこの中から、特に印象的だった場所をいくつか取り上げていきます。

■宮古田老地区にて

宮古田老地区に行った日は、朝がととても早く、メンバーは目をこすりながらの移動でした。青森・八戸港から南下し岩手県・宮古田老地区へと向かって行く中、車窓(移動はマイクロバスで行いました)から見える景色は、意外なものでした。「ここは被災地なのか……？」私はそう感じずにはいられませんでした。東北の朝の冷たく澄んだ空気の中にある町々は、およそ1年前、あの震災を経験したものとは思えないほど、町の原型を留めていたからです。「ニュース番組で報道されているほど大きな被害ではないのかな」この時はまだ、私はそう思っていました。

しかし、マイクロバスが走る山路には「津波がここまで来た」という表示がいたるところに見受けられていました。

八戸港を出発し暫くたち海岸線に出た時、先ほどまで私が思っていた「ニュース番組で報道されているほど大きな被害ではないのかな」という思いは打ち砕かれました。海岸線に出た瞬間に目に入ってきたのは、高く高く積み上げられた瓦礫の山と、

津波によって破壊された分厚いコンクリートの堤防。些か無礼な表現かもしれませんが、私はSF映画の世界に来たのか？と感じました。予想をはるかに超えた、信じられないほど巨大な瓦礫の山は、同じ日本の景色とはとても思えませんでした。

多くの報道がなされていたためご存じの方も多いと思いますが、私達が向かった宮古田老地区は東日本大震災においても大きな被害を受けた場所です。現地に着いた時、私は「大きな被害があった場所」という表現の矮小さをひしひしと実感しました。

宮古田老地区について私達は、目の前の光景に呆然とすることしかできませんでした。町が無くなっているのです。見えるのは草花と家の基礎、そして震災後設置された信号と道路だけ。見渡す限り建物はありません。建物のない町、生活が奪われた町、この現実には私は膝が折れそうになりました。

宮古田老地区では、震災後「東日本大震災を風化させないよう、多くの人にあの時のことを伝えたい」という意志のもと作ら

れた、宮古観光協会の学ぶ防災係の方のお話を伺いました。

宮古は大きな津波を何度か経験しており、そのため「万里の長城」とも称される“スーパー堤防”が設けられていました。その堤防は城壁のように重厚で、町と海との境界線のようにも見えました。ですが、その堤防も津波によりところどころ崩れ、破壊されていました。

学ぶ防災係の方は「この堤防が逆にアダとなってしまった」と言っていました。宮古は大きな津波を何度か経験している町ですから、そこに住む人々も地震がおきたら津波が来る、と肝に銘じていたそうです。しかしスーパー堤防に守られている、という意識が強くなってしまったためにいつからか「津波が来ても堤防があるから大丈夫」と思うようになってしまっていたそうです。その意識のために震災時も逃げ遅れてしまう人が多く出てしまい、津波にのまれてしまった、ということです。

「堤防を過信してはいけない。堤防は逃げるまでの時間を稼ぐもの」学ぶ防災係の方のこの言葉がとても深く心に沁み入りました。



※信じられない程、巨大な瓦礫の山



※スーパー堤防の上から、宮古旧地区



※スーパー堤防の上で、学ぶ防災係の方のお話を聞く

■鵜住居商店街にて

今回の震災の特徴として“揺れ”による被害は少なく、一方で“津波”による被害が甚大である、というものがあります。その特徴に関して、とあるお話を鵜住居商店街で聞くことができました。

鵜住居商店街で私達は岩手の郷土料理をたくさん詰めたお弁当を昼食に頂きました。このお話しはそのお弁当を作ってくれた小母さんがしてくれたものです。

その小母さんは鵜住居には住んでいたものの山間部に居を構えていたため、震災の影響はほとんど受けなかったそうです。ここに“揺れ”による被害は少なかった、という今回の震災の特徴が見られます。そう、同じ岩手県内でも沿岸部と山間部では受けた被害は全く違ったのです。

山間部に住んでいたその小母さんは、震災がおこるとすぐに沿岸部の“海の住民”が大変な被害に見舞われた、と知らせを受けました。「海の人々は大丈夫だろうか？」その想いを胸に、3月の岩手、手袋をしていても両手がかじかむような冬の山を歩いて越え、沿岸部まで行くと……「言葉にならない光景が目の前一杯に飛び込んできた」、そうです。

津波によって家も草木も堤防も流され、そして多くの人々が町ごと奪われた。その光景を見た瞬間に小母さんは「助けてあげなくちゃ!」と強く感じたそうです。

それから小母さんの、“山の住民”の支援が始まりました。

まず始めに「おなか为空いてちゃどうにもならない」そう思い、朝も早くから炊き出しを始め、おにぎりを握ったそうです。

「毎日どれくらいの数を作っていたのですか？」と伺うと、「そうね。毎日7000個以上は作っていたね」とニコリと笑って答えてくれました。7000個以上のおにぎりを毎日作り続ける、皆さんにはそんな経験がありますか？

次に「まだまだ寒いから服と毛布も持っていかなくちゃ」と思い、家中の服や毛布、布団などの寒さを凌げるものをかき集め、背中にしょって山と海との間を歩いて何往復もしながら運んだそうです。震災がおこったのは3月11日。北海道に住んでいる私達ならば想像することが出来ますが、雪国の3月はまだまだ寒い時期です。雨と雪の入り混じったみぞれを浴び、体の芯まで冷え切りながら小母さんは海の住民へ、寒さを凌げるようにと、風邪などひかないようにと物資を運んだそうです。「家中のものを持ってちゃったからね、自分の着る分が無くなっちゃって……。私ったらあの時は一ヶ月間同じ格好をしてたんだよ」小母さんは私達にケラケラ笑いながら話してくれていましたが、その時の苦労はどれほどのものだったのでしょうか？

また、小母さんは“支援のジレンマ”のお話しをして下さいました。

小母さんが物資を運んでいる避難所(体育館)には知り合いの子供がいたそうです。ある時小母さんは「きっとあの子が喜

ぶだろうから」, そう思い立ち自宅にあったコーンポタージュをポットに詰めて避難所に持っていきました。そうして避難所に行き, その子供の前でポットのフタを開けると, コーンポタージュの温かい良い香りが避難所中にプワンと広がりました。すると, その香りにつられて避難所にいた子供たちが何人も何人も来てしまいました。コーンポタージュはポット一杯分しかない, とてもじゃないけれど子供たち全員に十分な量をあげることなんてできない。「そして……どうされたんですか?」と私が聞くと, 小母さんは「スプーンにね, ちょこっとずつ掬ってね, 子供たちに一口ずつあげたの」と答えました。小母さんはその時こう思ったそうです「私は知り合いの子供に喜んで欲しいと思ってコーンポタージュを持っていったけれど, 結局, 知り合いの子供にもその他の子供たちにも十分な量のコーンポタージュを食べさせてあげることができなかった。だからといって始めからコーンポタージュを持っていかない, ということもできないし……。あの時私はどういう選択をすれば良かったのだろうか?」, と。

このジレンマのお話を伺い, 支援の難しさを私達は知りました。支援する時に見知った人がいたら, その人を優先したい, そう思うってしまうのはしかたがないでしょう。けれどその優先によって他の人達が悲しむのなら……。何が正解なのか, 私達にはまだわかりませんでした。

■瓦礫撤去作業を経験して

派遣事業の三日目(5/20(日)), 私を含めたメンバーの6名はテレビでよく報道されていた, 瓦礫撤去作業を行いました。場所は釜石市の宝来館という旅館の近く。作業は草刈り, 津波で流されてきた物の撤去, 泥にまみれた道路の掃除, などです。こちらの作業を埼玉の大学の方々, そして札幌のボランティア団体の方々と一緒に行いました。私はメンバーの一人とともに二人で草刈りを担当しました。

何故, 草刈りなんてやるの? と思われる方もいるかもしれないので説明します。津波によって建物が流された町には人が住むことはできません, そのため町に人がいなくなり手入れをする人がなくなった結果, 被災地のいたるところに雑草が生い茂っているのです。雑草くらい放っておけばいいのでは? と感じる方もいるかもしれませんが, 「かつて建物があった場所」は「誰かが生活していた場所」であり, 被災者の方々の家があった場所を少しでも綺麗にできれば, という考えで草刈りをするのです。

この作業はどれもジワジワと体力を消費していくようなもので, マスク・厚いゴム手袋・帽子を装備したメンバーは5月の太陽の下, 顔に汗を浮かべながら動きました。

私達の多くがこういった作業の初心者である, ということで作業は30分おきに10分くらいの休憩をはさんで行われました。一見休憩ばかりしているようにも見えますが, これぐらいイ

ンターバルを挟んでも私には中々大変な作業でした。

短い時間でしたが, 作業を終えるとその成果はしっかりと感じることができました。私達がやったことは微々たるものですが, その微々たるものが積み重なり「復興」に近づいて行くのだな, と私は思いました。

ここで印象的だったのが, 私達に作業のレクチャーをしてくださった方が「こういった活動は“日常生活に組み込むようにして行う”という意識をもつといい」と言っていたことです。無理をせず, 自分の出来る範囲のことからやってみる, とてもためになることを勉強させて頂きました。



※作業風景1



※作業風景2 ここにもかつて家がたくさんあったそうです。



※たるていメンバー集合写真。バックは宿泊した“きらりベース”の案内所。

今回は文字数の関係でたるていの活動の全てをお伝えすることができませんでした。もっとたるていがやったこと, 被災地の現状, そして被災地が抱える様々な問題(被災地に何故新しい建物が建てられないか, 皆さんご存知ですか?)を知りたい方は, 是非右のQRコードからFacebook上でたるていと友達になってください! 今後の活動もそちらでお知らせします!





～あなたのやさしい気持ちと行動が、もう一度立ち上がる力になります～



まだまだできることがたくさんあります。

東日本大震災から1年以上経ちました。

炊き出し、泥かきなど、もうボランティアが役に立つことがあまりないのではないか、と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、一部地域を除いて、このようなニーズは減ってきています。多くの地域では、被災された方々の仮設住宅などへの入居も進みました。

でも、仮設住宅などで、「ボランティアができること」が次々と生まれています。

被災した方の話し相手になる、買い物を代行する、生活全般

を見守る、仮設住宅での新しいコミュニティを作る、心のケアをする、など、力仕事に不得意な方や女性の方、お年を召した方などの手が必要な場合も非常に増えてきました。

他にもできることはたくさんあります。

仮設の集会所などを活用した「お茶会」など、各地で盛んに行われていますが、参加者が固定されがちになったり、参加しない男性が孤立しがちになったりと、問題も色々出ています。このため、例えば、囲碁や将棋などの趣味の会や、コミュニティのための大工仕事や花壇づくりなど、いまだで気づきにくかった役割がたくさん生まれてきているのです。



まずは、参加してみませんか？

継続的に活動できなくても大丈夫です。一回の参加でも被災された方々への「私たちは被災された方々のことを忘れていません」というメッセージになり、大きな力になります。

被災された方々の「心のケア」は、必ずしも、心理・医療の専門家による特別な取組だけではありません。あなたのやさし

い気持ちと行動が、ふたたび立ち上がる力につながっていきます。

自分のペースで参加しましょう。大学等によっては、学生等の皆さんがボランティア活動を行いやすいよう配慮している場合もありますので、大学等に問い合わせてみてください。



参加する方法は大きくわけてふたつあります。

1: パッケージ化されたものを利用する場合

⇒ボランティアバス（通称：ボラバス）ツアーを利用する

交通手段や宿泊手段がパッケージ化された「ボランティアバス」や「ボランティアツアー」の募集状況については、例えば、下記サイト等で一覧できます（検索もしくはURLを打ち込んでご覧下さい）。観光がセットになっているものもあります。

- 「助け合いジャパン」ボランティアツアー・ボラバス募集状況 http://tasukeaijapan.jp/?page_id=3813
- 「東日本大震災支援全国ネットワーク」ボランティアバスのページ http://www.jpn-civil.net/news/volunteer_bus/

2: ご自分で交通手段等を手配して活動する場合

⇒①ボランティアセンターに登録し活動を行う

下記サイトにて各市町村のボランティアセンターにおけるボランティアの受け入れ状況が一覧できます。

- 「全国社会福祉協議会 被災地支援・災害ボランティア情報」http://www.saigaivc.com/vc_設置状況-pdfファイル/

⇒②NPO等に登録し、活動を行う

たとえば下記サイトの下から2つめ「ふるさとふれあいプロジェクト」等で、ボランティアの受入状況が一覧できます。遠方からの方など、長期的、継続的に活動するのは困難な方であっても、支援いただけることはたくさんあります。

- 「助けあいジャパン」ボランティアしたいのページ <http://tasukeaijapan.jp/?cat=173>



地元NPO等の活動も参照してください。

岩手、宮城、福島では、地元NPO等が独自にボランティア募集等も行っています。こういったNPO等を支援するための中間支援組織「連携復興センター」が三県それぞれにあって、地元NPO等のネットワークの中核を担っています。地元での活動状況等を概観できますので、下記サイトをご参照ください。

- いわて連携復興センター <http://www.ifc.jp>
- みやぎ連携復興センター <http://www.renpuku.org/>
- ふくしま連携復興センター <http://f-renpuku.com/>

「ボランティア活動届」について

被災地におけるボランティア活動のみならず、各種ボランティアに参加する場合は、必ず事前に学生センター窓口（学務課）に次の届出を行ってください。

- ①個人で参加する場合…【小樽商科大学「ボランティア活動届」（個人用）】
- ②ゼミなど同一の学科・専攻又は学生団体等の複数学生で参加する場合…【小樽商科大学「ボランティア活動届」（団体用）】

（問い合わせ先）小樽商科大学学務課学生支援係 電話：0134-27-5245



平成24年度小樽商科大学学術研究奨励事業「学生論文賞」募集要項

小樽商科大学学術研究奨励事業
学生論文賞実施委員会

小樽商科大学教育開発センターならびにビジネス創造センターは、小樽商科大学学術研究奨励事業学生論文賞（以下、学生論文賞）実施要項に基づき、学生論文賞各賞受賞対象論文を募集します。

1. 趣 旨

学生論文賞は、株式会社北洋銀行の協力のもとに、本学学生の優れた研究成果を褒賞することにより、自主的な学習を奨励し、以て、創造性及び自主性を備えた人材の育成を図ることを目的とします。

2. 応募資格

- 大学院生部門 本学大学院に在籍する学生
- 学部生部門 上記を除くすべての本学学生

3. 募集論文

- テーマ 自由論題
- 様式 実施委員会が定める様式に従うこと
<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/fdhome/gakuron/gakuron200700.htm>

4. 日 程

・エントリー期間	平成24年10月15日(月)～18日(木) 19日(金)	8:30～21:00 8:30～12:00
・オリエンテーション	平成24年10月31日(水)	
・第1次審査（プレゼンテーション）	平成24年11月 7日(水)	
・第1次審査結果発表	平成24年11月14日(水)	
・論文提出期間（第2次審査）	平成24年12月 3日(月)～ 6日(木) 7日(金)	8:30～21:00 8:30～12:00
・最終発表	平成25年 2月 上旬	
・全体表彰	平成25年 3月 中旬	
・学位記授与式表彰	平成25年 3月19日(火)	

5. 審 査

- 第1次審査 口頭による発表を審査する。事前配布される梗概および投影資料を利用できる。
- 第2次審査 論文を審査する。原則として実施委員会が依頼する2名の教員が審査員となる。

6. 受 賞

実施委員会は審査結果に基づいて以下の各賞の受賞論文を決定し、研究奨励金を授与します。

- ヘルメス賞（最優秀賞）（10万円）
- 優 秀 賞（2等）（5万円）
- 奨 励 賞（3等）（1万円）
- 特 別 賞 （1万円）
- ベスト・プレゼンテーション賞 （1万円）

7. 表 彰

各賞受賞者は、実施委員会が開催する表彰式において表彰状および奨励金を授与されます。なお、ヘルメス賞（最優秀賞）受賞者は平成24年度学位記授与式において特別表彰されます。

8. 問い合わせ

不明な点等は、学務課教育課程改善係窓口にお問い合わせください。

昨年の第1次審査の論文概要、第2次審査の論文等は、次のとおり閲覧可能ですので、参考にしてください。

- 論文概要は学務課教育課程改善係窓口にて
- 平成23年度ヘルメス賞・優秀賞受賞者分論文、及びベスト・プレゼンテーション作品
<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/fdhome/gakuron/gakuron200700.htm>

グリーンヒル (学生支援) プロジェクト

追加募集要項

地域社会における学生の皆さんの課外活動を支援するため、「小樽商科大学グリーンヒル・プロジェクト」を募集します。教職員の目からは気付かない若い皆さんからの独創的な提案と実行を期待しています。

記

1. 応募条件
 - ・本学の学部学生、大学院学生で個人又はグループ
 - ・課外活動であること
 - ・地域社会との文化的・社会的連携等に寄与するもの
 - ・学生自身が企画・運営・実施するもので、原則として平成25年2月末までに終了するプロジェクトであること
2. 援助金額 対象プロジェクト1件当たり10万円以内
 - (1) 現金は支給しません。物品による現物援助になります。ただし、備品（デジタルカメラ等）はプロジェクト終了後返却してもらいます。
 - (2) 援助物品の購入は、すべて大学経由で行いますので、プロジェクト遂行に必要な物品であっても、自分で購入した物品の代金は援助しません。
 - (3) 飲食費（物）は支給しません。
 - (4) 旅券を伴うものについては、必要が認められるときに限り、バス券・JR券等を現物支給することがあります。ただし、旅行費用がプロジェクト経費の主たるものは、対象外となります。
3. 選択件数 予算の範囲内で数件程度
4. 応募方法 プロジェクト企画書（所定の用紙）を学務課学生支援係にメールで提出してください。
 - (1) 企画書様式はHPからダウンロードしてください。ページを増やすことはできません。
 - (2) メール送付先：g-shien@office.otaru-uc.ac.jpメールタイトルに必ず「グリーンヒルプロジェクト企画書」といってください。
5. 応募締切 平成24年10月9日（火） 当日のメール送信日時有効
6. 選考方法 学生委員会で書類審査のうえ決定します。
7. 選考結果 平成24年10月中旬予定 （メールで連絡）
8. その他 採用者は、プロジェクト終了後、実施報告書の提出が義務付けられます。プロジェクト採用・実施に当たっての部屋等は提供しません。
9. 問合せ先 学務課学生支援係 (0134-27-5245)
10. プロジェクトの参考例
 - ・学生と市民の方が協力して小樽を活性化する事業
 - ・小中学校の部活動を支援する事業
 - ・除雪ボランティア等

新任教員のご紹介 *New face*



今号の新任教員のご紹介は当大学が運営するブログ「商大くんがいく!」より一部再掲したものです。



あまの だいすけ
天野 大輔

商学部准教授（経済学科）

研究分野：公共経済学，財政学，マクロ経済動学

担当授業科目：財政学

— 商大に着任されて約2ヶ月が経ちましたが、小樽での生活はいかがですか？

元々後志の仁木に実家があるため、何度も来たことがあるので小樽には慣れています。今は小樽に住んでいるんですが、坂道以外はもう慣れました！

— 商大に着任する前は何をされていたのですか？

着任前は北海道大学大学院経済学研究科で助教をしていました。当然、運動はしていません。

— 商大にはどのようなイメージをお持ちでしたか？着任されてイメージは変わりましたか？

商大とも繋がりが深かったので、特別なイメージは持っていませんでした。しいて挙げるとすれば、学生や先生方がスポーツを盛んに行っているという印象があります。私は高校時代にスポーツをしすぎたので、今は全く運動をしたくありません！

— 天野先生はどのような研究をしているのですか？

様々な租税の税率を変更すると、長期的な経済成長率や社会厚生（社会全体の満足度）がどのように変化するかということを理論的な動学マクロモデルを用いて研究しています。

— 趣味はありますか？休日はどのように過ごしていますか？

新刊のエンタメ系ミステリー小説を和洋関係なく読むか、パンク系の音楽を聴くかしていません。休日は運動したくないので早くからお風呂に入っています。

— では最後に、商大生のみなさんにメッセージをお願いします！

僕にスポーツを誘わないでください！逆に運動不足の人、運動しない人は大歓迎です。勉強をしなさすぎるのも、僕みたいに過去に運動をしすぎて現在でしなくなるのも問題なので、どちらも過不足無く頑張ってください！



しら た やす ひろ
白田 康洋

商学部准教授（経済学科）

研究分野：ミクロ経済学とゲーム理論

担当授業科目：ミクロ経済学

— 商大に着任されて約2ヶ月が経ちましたが、小樽での生活はいかがですか？

現在小樽に住んでいるんですが、生活には慣れました。でもまだ小樽観光をしていないので、もっと観光してみたいです。特に、せっかく小樽に来たのでウニ等を使った海鮮料理を食べてみたいです！

— 商大にはどのようなイメージをお持ちでしたか？着任されてイメージは変わりましたか？

山の上にある大学なので、坂を登るのが大変そうだなというイメージでした。イメージ通り、やっぱり大変でした（笑）。それと、学生達が賑やかだなあという印象を持ちました。

— 商大に着任する前は何をされていたのですか？

一橋大学で大学院生をしていて、研究漬けの毎日でした。小樽商科大学が教員として初めて働く場所になります！

— 白田先生はどのような研究をしているのですか？

ミクロ経済学の分野なのですが、「ネットワーク化された市場での取引」について研究しています。標準的なミクロ経済学の市場モデルでは、売り手と買い手はどんな相手とも取引費用なしで自由に取引できることが想定されています。しかし、実際の企業間取引においては、企業はネットワークで結ばれた他企業とのみ取引が可能であることが多いです（例えば、自動車の系列関係ネットワーク・天然ガスのパイプラインネットワークなど）。では、このようにネットワーク化された市場での取引はどんな特性を持つのか、標準的な市場モデルとどのような違いが出るのかを、ゲーム理論を用いて考察しています。

— 趣味はありますか？

囲碁が趣味です！大学生時代は囲碁部に所属していて、今でもインターネットで囲碁をしたりしています。

— 動物に例えるとご自分は何と言われることが多いですか？または何だと思いますか？

難しいですね（笑）。周りから、この動物に似ていると言われたことは無いです。イノシシ年生まれなので「イノシシ」ということにしてください。

— では最後に、商大生みなさんにメッセージをお願いします！

ほとんどの人にとってこの大学4年間で最後の学生生活になると思います。ですので、「勉強」と「遊び」を両立して、両方を充実させられるように頑張ってください！





ふたむら まさこ
二村 雅子

商学部准教授（商学科）

研究分野：財務会計

担当授業科目：簿記原理

— 商大に着任されて約1ヶ月が経ちましたが、どのような印象をお持ちですか？商大に来る前はどのようなイメージを持っていましたか？

着任する前から「商学討究」等を読んで商大のことは知っていたのですが、小樽高商時代から続いている歴史の深い大学というイメージを持っていました。実際に来てみた印象は、学生達がとても活発で、明るい大学だなと感じました。また、地域との関わりが深いことに驚きました。

— 商大に着任する前は何をされていたのですか？

名古屋大学大学院経済学研究科の大学院生でした。元々は大阪出身で、出身大学は神戸大学です。ずっと関西に住んでいたのが北海道に住むのは初めてです！

— 小樽に来てみて、いかがですか？どんな印象をお持ちですか？

海が綺麗だなあとします。来たばかりの頃は雪が残っていましたが、今は暖かくなってきて、とても過ごしやすいです。他の先生からは、冬は大変だぞと脅されています（笑）。

— 二村先生は「連結会計における資本と負債の区別に関する研究」をされているそうですが、これはどのような研究なんですか？

連結会計の1つの項目である少数株主持分に着目して研究しています。現在の日本の「ルール」では少数株主持分は純資産（資本）とされていますが、負債だった時代もあります。この少数株主持分は他の会計処理に影響を与えて利益（もうけ）の計算に影響します。少数株主持分は理論的にはどう位置づけられてきたのでしょうか、資本と負債の区別を前提とした時の整合的な会計処理はどういうものがあるのでしょうかということを研究しています。会計というの

は、日本なら日本の「ルール」があり、それに則って財務諸表が作られています。日本企業は日本だけで活動しているわけではないので、今後は他の国についても研究していきたいです。

— 趣味はありますか？

登山が趣味です！名古屋大学の院生だった頃、研究ばかりしていたので「自然に触れたい！」と突然思い立ち、登って見たらとても楽しかったんです。日本三名山（三霊山）の富士山と白山には登ったことがあるので、残りの1つの立山に登ってみたいと思っています！

— 動物に例えるとご自分は何と言われることが多いですか？または何だと思いませんか？

あまり例えられたことが無いですねえ。逆に質問したいんですが、何の動物に似ていると思いますか？

— 迷いますね（笑）。明るくて、小柄なので「ウサギ」に似ているかなと思います。

じゃあそれをお願いします（笑）。

— では最後に、商大生のみなさんにメッセージをお願いします！

学生のみなさんには、「色々なことに挑戦しつつも、興味を持ったことを大切にしてもらいたい」と思います。

たくさんの方に挑戦して、みなさんが持っている様々な「可能性」を見つけて欲しいと思います。自分が興味を持ったことを続けていけば、もちろん、上手にいくことばかりじゃないと思いますが、将来的にはそれら全ての経験が生かされるはずです！



たばやし よういち
田林 洋一

言語センター准教授

研究分野：スペイン語学, 言語学

担当授業科目：

基礎ゼミナール, スペイン語Ⅰ・ⅡA・ⅡB

上級外国語Ⅲe・Ⅳe・Ⅱe (スペイン語)

— 商大に着任されて約2ヶ月が経ちましたが、小樽での生活はいかがですか？

まだ完全に慣れてはいませんが、言語センターの方々に世話になって徐々に小樽での生活に慣れてきたところです。

— 商大にはどのようなイメージをお持ちでしたか？着任されてイメージは変わりましたか？

商学部しか無い大学ですので、学生も商学のことしか興味が無いのかと思っていました。でも実際に来てみると、商学以外にも興味のある学生も多く、「語学に興味あります!」という学生もいてイメージが変わりました。商大の学生達は真面目で勤勉で、苦手な科目があっても逃げないので凄いです!

— 商大に着任する前は何をされていたのですか？

東京のいくつかの大学で講師をしていました。以前に法律事務所で英語・スペイン語の通訳兼パラリーガル(弁護士の業務補助)をしていたこともあります。

— 田林先生はどのような研究をしているのですか？

「スペイン語学」と「言語学」の研究をしています!具体的には、スペイン語の否定に関する研究や、認知言語学と呼ばれる「人間が持つ認知能力(知覚・視覚など)との関係からの言語の研究」をしています。

例えば「虹」という言葉は日本では7色というイメージですが、他の国では6色だったり5色だったりします。その違いがどこから来るのかというのを研究するのも認知言語学の研究の一つです。

— 趣味や特技はありますか？

バドミントンと合唱(アカペラ)です!バドミントンは高校時代からで、合唱は大学時代からやっています。小樽に来てからは両方とも出来ていないので、機会や場所があればやりたいなあと考えています。

— 動物に例えるとご自分は何と言われることが多いですか？または何だと思いますか？

「モグラ」だと思います。その心は、「決めたら猪突猛進!でも目が見えないので壁にぶつかってしまう」です。

— 商大の学生とはどのように関わっていきたいと考えていますか？

小さな大学ですが、その分学生と教職員の距離が近いというのは大きなメリットだと思います。せっかく距離が近いので、学生みなさんとも積極的に関わっていきたいです!

— では最後に、商大生のみなさんにメッセージをお願いします!

「専門分野にとらわれず、とにかく色々な分野の本を読んで欲しい」です!私も言語学が専門ですが、社会学や政治学などの分野も勉強して視野を広げるようにしています。ぜひ色々な分野の勉強をして「こういう考え方もあるんだ」と感じてください!



いのぐち じゅんじ
猪口 純路

大学院商学研究科准教授
(アントレプレナーシップ専攻)

研究分野: マーケティング論, 流通システム論

担当授業科目: 顧客志向経営, ケーススタディⅡ

—先生として商大に戻ってきた感想はいかがですか？

ずっと商大で働きたかったので嬉しいです!!

合宿所が新しくなっていたり、学生寮が出来ていたりして変わったなあとと思う部分もあったのですが、校舎は以前と変わらなくて「懐かしい!」と感じました。

昔教わった先生やお世話になった職員の方が現在もたくさんいて、学生時代と変わらずフランクに接して下さるのが心地良いですね。

—商大で働きたいと思った理由は何ですか？

自分自身が、商大で入学前には思いもよらなかった色々な経験をできたことで、とても充実した学生生活を過ごせました。

その当時の経験が、その後の人生をとても豊かにしてくれていると思っています。

今の学生にも、同じく商大ならではの経験を沢山して欲しい、可能であればそこに関わりたいと思ったからです。

商大が第一志望ではなかった学生もいると思いますが、私は「よその大学に出来て、商大に出来ないことは1つもない!」と思っています。

むしろ、学生と教職員の距離が近いこの大学でしかできないことがたくさんあるんだということを知ってもらいたいです。

また、マーケティング研究者としては、商大は国内有数の研究拠点だと思っており、そこに名前を連ねられたらなあという憧れがありました。

—猪口先生はどんな大学生活を過ごしましたか？

商学科で高宮城先生のゼミに所属し、流通論とマーケティング論の基礎を学びました。

部活は硬式テニス部に所属していました。

テニスだけではなく、「部活」という組織のマネジメントや、挑戦を継続することの大切さなども学ぶことが出来ました。

また、OB・OGとの繋がりも強かったので、卒業生や地域の方々に育ててもらえたという印象を持っています。

アメリカのウェスタン・ミシガン大学に交換留学した経験もあります。

語学力は拙かったのに、面接官の先生が私の留学に対する想いを受け止めてくれて、大変な思いをしながらも留学を実現させてくれた時は本当に嬉しかったです。

—先生はどのような研究をしているのですか？

広く言うとマーケティング論や流通システム論、狭く捉えると「市場志向(顧客志向)」をキーワードにした研究をしています。

具体的には、日中韓のアパレル企業や国内外の流通企業に向いて、その企業のマーケティング戦略についてインタビュー調査やアンケート調査を行ったりしながら、既存理論では十分に説明できていない現象について、仮説の構築や統計的検証をおこなっています。

—趣味や特技はありますか？

テニスが趣味です!

中学・高校・大学とずっとテニスを続けてきて、大学生の時には北海道の学生チャンピオンになったこともあります。

大学受験の時に商大を選んだ理由も、商大に入って公認会計士になれば時間を自由に使えて、社会人になっても昼間からテニスができるんじゃないかと思ったからでした!(笑)

—動物に例えるとご自分は何と言われることが多いですか?または何だと思いますか?

爬虫類に似た顔だと言われるので「トカゲ」をお願いします。妻からはどういう訳か「ゴリラ」だと言われています。

—商大の学生とはどのように関わっていきたいと考えていますか?

「先生と生徒」ではなく、「先輩と後輩」のように関わっていただけたら良いと思っています。

商大OBの大学教員だからこそできる話や関わり方が出来ると嬉しいです。

—では最後に、商大生みなさんにメッセージをお願いします!

「夢は大きく!」

商大生は良くも悪くもバランス感覚が良いので、初めから実現可能な目標を設定してしまいがちです。

自分で限界を決めずに高い目標を設定して、場合によっては社会人になってもそれを追いかけて欲しいと思います。

ちなみに私の現在の夢は、商大を「世界」に知られる大学にすることです!!

猪口先生ありがとうございました。

エネルギッシュな先生から色々なことを吸収してください!

新サークル紹介

circle information

商大充

こんにちは！商大生活充実サークル"商大充"です。私たちは、商大生には大学生活を充実してもらうために何かお手伝いは出来ないかと考え、イベントの企画・運営を行っています！4月には一年生向けの刺激懇談会(通称"シゲコン")というイベントを開催しました。これからも、充実につながる面白い企画を開催していきますので、ご期待ください！また、メンバーは常時募集していますので、興味を持ったらずひメールしてください！

shoudaijuu@gmail.com



IPC (情報処理サークル)

皆さんこんにちは！このたび、情報処理の勉強をするサークルを作りました。今まで経済・会計・法律を勉強するサークルはありましたが、情報処理を勉強するサークルはありませんでした。まずは、メンバー全員が国家試験の「ITパスポート」に合格することを目標としています！資格取得後は学んだことを生かして、様々な活動をしていく予定です！ほとんどのメンバーが知識0から勉強をはじめています。情報処理に興味がある人は、気軽に声をかけてください！

ouc.ipc@gmail.com

料理サークル「オレオ」

こんにちは。料理サークル「オレオ」です。私たちは今年の春に結成したばかりのサークルです。料理サークルというと料理をしているだけと思われるかもしれませんが、しただけではありません。料理はあまり得意ではないけれど食事することが目的で参加している人もいます。もちろんみんなが調理をしており日に日に料理の腕も上達しています。活動は月1、2回程度で部員は全員が他の部活にも所属しており兼部も自由です。部員募集中なので興味のある人はぜひ連絡ください。

oleo.cooking@gmail.com



Shuttle cock (バドミントン・サークル)

私達は週2～3回、小樽総合体育館にて練習をしています。

ほぼ初心者サークルで、シャトルもナイロンを使用しています。

本気で練習する活動ではなく、バドミントンを楽しみ、好きになってもらうようにゲーム中心の活動です。

また、全面禁酒なので、お酒が飲めない人、飲みたくない人でも気軽に活動できる良いサークルだと思います。

体育系サークル

硬式庭球部	Be-Pal (テニス)
軟式庭球部	トランボリン競技部
硬式野球部	ラクビー部
準硬式野球部	男子バレーボール部
基礎スキー部	柔道部
男子バスケットボール部	チャダンス部
女子バスケットボール部	ビリヤード同好会「5&H」
ワンダーフォーゲル部	軟式野球同好会「RANGERS」
合気道部	男子ラクロスサークル
卓球部	クイック (バレー)
漕艇部	clutch (バスケット)
ヨット部	応援団
空手道部	MMA (総合格闘技)
サッカー部	Liberal (サッカー・フットサル)
男子ハンドボール部	夜間主バドミントンサークル
女子ハンドボール部	夜間主テニスサークル
バドミントン部	夜間主バレーボールサークル
水泳部	夜間主バスケットボール
弓道部	夜間主フットサルサークル
ゴルフ部	ソフトボールサークル
陸上競技部	shuttle cock (バドミントン)
剣道部	

文化系サークル

室内管弦楽団	国際交流サークル
プレクトラム・アンサンブル	美術サークル
グリークラブ	現代経済研究会
カンタール	放送サークル「たるもじゅ」
アカペラサークル「AIRS」	地獄坂工房
フォークソング部	キャリアアップサークルOQC
ジャズ研究会	MOSサークル
軽音楽部「ECHOES」	おたっぴ
夜間主軽音楽部	吹奏楽同好会
ESA (英語部)	商大充
AIESEC (アイセック)	鬼ごっこサークル「鬼殺し」
囲碁・将棋部	小樽商科大学旅行サークル
演劇戦線	小樽赤黒同好会
AP (会計プロジェクト)	料理サークル「オレオ」
緑法会	編入サークル
文芸サークル「アジュナシア」	AXCEL (ストリートダンス)
茶道部	IPC (情報処理サークル)
写真部	
小樽商科大学「翔楽舞」	
「学園だより」編集部	
小樽笑店	
ふえサークル「Forest」	

学生団体

学生自治会執行部
ゼミナール協議会
緑丘祭実行委員会

体育常任委員会
音楽・文化連合会
生協学生委員会

夜間主自治会

緑宵祭実行委員会

課外活動関連の各種届出について

これらの届出用紙はすべて学務課学生支援係にあります。大会やイベント等が決まり次第、ご連絡ください。

課外活動届

団体が学内、学外において大会（本学が当番の大会等も含む。）、定期戦、定期公演、他大学との練習試合等に参加するときは、団体の代表役員は日程が決まり次第、下記の事項を届け出なければなりません。ただし、団体が課外活動のため平常使用している場所で練習する場合はこの限りではありません。

- a 団体の名称及び大会、公演等名称 b 大会等の日時及び参加者名簿
c 大会等の場所及び連絡先 d 参加団体数等

集会届

ア 団体が集会を主催し、学内において開催しようとするとき、団体の代表役員は下記の事項を開催予定日の3日前までに届け出なければなりません。ただし、団体が団体固有の活動のため平常使用している場所で集会する場合はこの限りではありません。

- a 集会の日時及び予定される出席人員（名簿） b 集会の目的及び活動内容
c 主催団体の代表役員名 d 使用場所管理者の使用許可書

イ 団体が集会を主催し、学外においてこれを開催しようとするとき、又は学外の団体の集会に団体として参加をしようとするときも前項に準じます。

出版物の頒布、金銭・物品の募集

- ア 学生が雑誌その他の印刷物を刊行頒布しようとするときは、あらかじめ所定の様式に従って届け出なければなりません。（印刷物刊行届）
イ 印刷物を有償で頒布しようとするとき、又は金銭・物品の募集をしようとするときは、あらかじめ許可を得なければなりません。（金銭・物品募集許可願）
ウ 前項の場合にはその収支の結果を税務署等に報告しなければなりません。



OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.168